

1. 目標

- ①裁判のロールプレイングを通して、司法や裁判員制度についての関心を高める。
- ②証拠の整理や他者との討論から事象を多面的・多角的に考察し、総合化して公正に判断する。
- ③個々の事実を正確に把握して評価し、また、その事実に基づいて自分の考えを適切に表現する。
- ④刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義などについて理解する。

2. 指導計画

時間	学習内容	教師の指導	学習活動	評価
1	○刑事裁判、裁判員制度の概要について知る。	○パンフレットなどを活用し、裁判員制度について説明する。 ・いつから始まるのか、どんな制度か、どんな裁判を扱うのか、裁判員の役割、評決の仕組み、裁判員に対する保護、守秘義務。 ○刑事裁判の仕組みや基本原則、裁判官、裁判員、検察官、弁護士、被告人、証人などの立場や役割について確認する。 ○「なぜ、国民が裁判に参加する必要があるのだろうか。」という問いについて、ワークシートに記入させる。 ○事前に生徒の中から演者を選んで練習させておく。実際の法廷の雰囲気を出すために、演技者の配置や服装などを工夫する。 ○授業の始めに全員にシナリオを配布し、模擬裁判中に自分なりに有罪、無罪（有罪とは言い切れない）の根拠になると思う部分に線を引かせる（有罪：赤、無罪・有罪とは言い切れない：青）。線を引いた部分と、検察官が論告メモに基づいて読み上げる有罪の根拠として主張している事実・証拠、弁護士が弁論メモに基づいて読み上げる有罪と切り切れない根拠として主張している事実・証拠と対比させ、有罪、無罪（有罪とは言い切れない）の根拠となり得るか考えさせる。 ○その際、「無罪の推定」について説明する。 ○個人での1回目の判断を、その理由とともにワークシートに記入させる。	○刑事裁判及び裁判員制度についての教師の説明を聞く (1.0) ○事前意識調査 (2) ○模擬裁判を行い、証拠となる事象を確認する。 (3.3) ○証拠について考え1回目の判決を考える。(5)	○刑事裁判の仕組みや基本原則、裁判員制度の仕組み、裁判官・裁判員・検察官・弁護人の役割について理解している。(知理) ○証拠に基づいて判断している。(思判、表)
2	○証拠の見方について知る。	○ワークシートに記入されていた1回目の判決結果を発表し、評決を取る。 ○「裁判員として証拠を検討するとき、どのような点に気をつけなければならないか」についてまとめさせ、ワークシートに記入させる。 ○何人かの生徒を指名して発表させ、クラスで検討させる。その際、証拠の見方については、次の点に留意する。 i) 証拠の二面性に着目させる。 ある証拠が有罪の証拠とも言い得るし、逆にそうとは言い切れない可能性を持つ場合もある。 ii) それぞれの証拠の重要度を考えさせる。 どの証拠を重要と見るかで判断が異なってくる。 iii) 刑事裁判の基本原則に従って証拠を総合的に考えさせる。 証拠を個別に評価するだけでなく、刑事裁判の基本原則に従って全体的に考察する。 ○班を作らせ、上記証拠の見方をふまえ、評議を行わせる。 ・第一時に記入させていたワークシートに基づき、各班に異なる意見の生徒が必ず入るように班を組む。 ・班長を裁判長役として評議を進行させる。 ・人によって着眼点異なることを認識させるのが第一の目的であるので、結論が出なくても構わない。(時間を見計らって討論を打ち切る。) ・班ごとに合意した点、意見対立があった点を報告させる。 ○評議をふまえて、再度個人で判断をさせ、ワークシートに記入させる。 ・1回目の判決と異なってもかまわない。また、班での評議結果にも拘束されない。ただし、理由をしっかりと書かせる。 ・第三時にクラスで評議を行うことを告げ、自分と異なる意見の人を説得するにはどんなことを主張すべきか、また、予想される反論に対する答えも考えさせ、ワークシートに記入させる。(簡条書き)	○1回目の評決を取る。(5) ○証拠の見方について考える。 (1.5) ○班ごとに討議し、他者の様々な意見を知る。 (2.5) ○2回目の判決を考える。(5)	○証拠を見る視点を理解している。(知理) ○自分の考えをわかりやすく他者に伝えている。また、他者の考えを正確に理解している(関、表)。 ○根拠を明確にして自分の考えをわかりやすくまとめている。(思判、表)
3	○裁判員制度の意義について知り、また制度の課題について考える。	○クラス全体で評議を行わせる。 ・教師を裁判長役として評議を進行する。 ・結論が出なくてもかまわない(時間を見計らって討論を打ち切る。) ○評議をふまえて、個人で最終的な判断をさせ、ワークシートに記入させる。 ・1回目、2回目の判決と異なってもかまわない。また、クラスでの評議結果にも拘束されない。ただし、理由をしっかりと書かせる。 ○クラスとしての評決を取る。 ○評決結果に対する考えをまとめさせ、ワークシートに記入させる。 ○何人かの生徒を指名し、発表させる。 ○裁判員制度の意義と課題について考えたことをまとめさせる。(簡条書きにする。) ○何人かの生徒を指名し、発表させる。 ○「なぜ、国民が裁判に参加する必要があるのだろうか。」という問いについて、再度、ワークシートに記入させる。 ○最後に3時間の授業についての感想をまとめさせる。	○クラスで討議し、さらに多くの他者の意見を知る。(2.0) (3) ○3回目の判決を考える。 (1.0) ○2回目の評決を取る。 (1.0) ○裁判員制度の意義について知り、また制度の課題について考える(1.0) ○事後意識調査と感想を書く。(7)	○自分の考えをわかりやすく他者に伝えている。また、他者の考えを正確に理解している。(関、表) ○根拠を明確にして自分の考えをわかりやすくまとめている。(思判、表) ○自分の考えをわかりやすくまとめている。(思判、表) ○裁判員制度の意義を理解している。(知理) ○自分の考えをわかりやすくまとめている。(思判、表)

3. 評価

- ①司法や裁判員制度についての関心が高まっている。
- ②証拠の整理や他者との討論から事象を多面的・多角的に考察し、総合化して公正に判断している。
- ③個々の事実を正確に把握して評価し、また、その事実に基づいて自分の考えを適切に表現している。
- ④刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義などについて理解している。